

アワダチソウグンバイの発生

竹内浩二・沼沢健一*・伊藤 綾
(安全環境科・*病害虫防除所)

【要 約】アワダチソウグンバイによる被害と分布を都下で初めて確認した。成虫・幼虫ともセイタカアワダチソウに多発し、キク、アスター、ヒマワリで葉の黄化や落葉をもたらす。現在までに多摩地域、江東地域など都内広く分布していることが明らかになった。

【目 的】

アワダチソウグンバイは 2000 年 4 月に兵庫県で最初に確認された北米原産の侵入害虫で、2005 年までに大阪府、滋賀県、奈良県、三重県、京都府、徳島県、岐阜県、愛知県、香川県、岡山県、鳥取県、高知県、静岡県まで分布拡大が確認されていた。東京都では 2006 年 9 月に立川市で本種の発生を初めて確認したため、都内での分布状況および被害状況を明らかにする。

【方 法】

- 1) 分布・寄主調査：最初に発生確認した立川市の多摩川沿いを中心にセイタカアワダチソウなどへの発生状況を調査した。また、11 月には江戸川区、葛飾区、足立区など江東地域についても調査した。
- 2) 薬剤効果試験：多発していた農総研のヒマワリ(10 株)に MEP50%乳剤 1,000 倍を散布(10 月 2 日)し、幼虫および成虫寄生数の推移を追跡し、効果を確認した。

【成果の概要】

- 1) 2006 年 8 月頃から立川市多摩川河川敷においてセイタカアワダチソウの葉が黄化する症状がみられるようになった。9 月 5 日に調査したところ、多数のグンバイムシ成・幼虫の発生を確認した。周辺でルドベキア、オオブタクサ、オオアレチノギクへの寄生も確認した。採集した幼・成虫の写真から横浜植物防疫所・時広五朗 氏によりアワダチソウグンバイと同定された。
- 2) 立川市、国立市、あきる野市、町田市、府中市など多摩地域や江戸川区、葛飾区、足立区など江東地域および練馬区でも生息が確認され、既に広範囲に分布していることが明らかになった。幼虫・成虫の発生を確認した植物は栽培種ではヒマワリ、キク、ミヤコワスレ、宿根アスター、シオン、サツマイモで、雑草ではセイタカアワダチソウ、オオアレチノギク、ルドベキアである(表 1)。
- 3) 成虫・幼虫(図 1)とも葉裏に寄生し、幼虫は集団で吸汁する。吸汁により葉表に脱色斑点を生じ、葉裏は排泄物で汚れ、加害が進行すると黄変する(図 2)。
- 4) キクにおいてカメムシ類での登録があり、本種に対して使用可能な MEP50%乳剤は幼虫および成虫に対して効果が高く、実用性がある(表 2)。
- 5) 今後の発生状況について注視するとともに普及センターなどを通じて生産者に周知する。

表1 アワダチソウグンバイ成・幼虫の寄生を確認した植物

科	種
キク科 (栽培種)	セイタカアワダチソウ, オオアレチノギク, ルドベキア, オオブタクサ キク, シオン, 宿根アスター, ミヤコワスレ, ヒマワリ
ヒルガオ科	サツマイモ

表2 ヒマワリに寄生するアワダチソウグンバイに対するMEP50%乳剤の効果

供試薬剤 処 理 量	反 種	各区5葉当たり寄生数									補正密度指数 ^a	
		処理前			3日後			10日後			3日後	10日後
		幼虫	成虫	合計	幼虫	成虫	合計	幼虫	成虫	合計		
スミチオン乳剤 ^b Lot.OE427 MEP 50% 1,000倍	I	56	68	124	0	0	0	0	5	5	—	—
	II	44	77	121	0	0	0	0	2	2	—	—
	平均	50.0	72.5	122.5	0.0	0.0	0.0	0.0	3.5	3.5	0.0	2.8
無 処 理	I	38	70	108	41	50	91	39	52	91	—	—
	II	59	56	115	71	61	132	68	66	134	—	—
	平均	48.5	63.0	111.5	56.0	55.5	111.5	53.5	59.0	112.5	100	100

a) 幼虫数, 成虫数の合計から算出.

(処理区の散布後生息数×無処理区の散布前生息数) / (処理区の散布前生息数×無処理区の散布後生息数) × 100

b) キクのカメムシ類に対する登録あり



図1 アワダチソウグンバイ成虫 (左)・幼虫 (右)



図2 ヒマワリ葉のアワダチソウグンバイ被害 (左; 葉表, 右; 葉裏)